

7.7 生物・生態系

7.7 生物・生態系

7.7.1 現況調査

(1) 調査事項及び選定理由

工事の施行中における建設機械の稼働に伴う魚類相、底生動物相への影響が考えられることから、以下の調査項目を選定しました。

ア．水生生物の状況（魚類、底生動物）

イ．生息環境

ウ．法令による基準等

(2) 調査地域

調査地域は、工事の施行中における建設機械の稼働に伴う魚類相及び底生動物相への影響を勘案し、計画道路及びその周辺としました。

(3) 調査手法

ア．水生生物の状況（魚類、底生動物）

a．魚類の状況

① 既存資料調査

「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）等の既存資料を収集・整理しました。

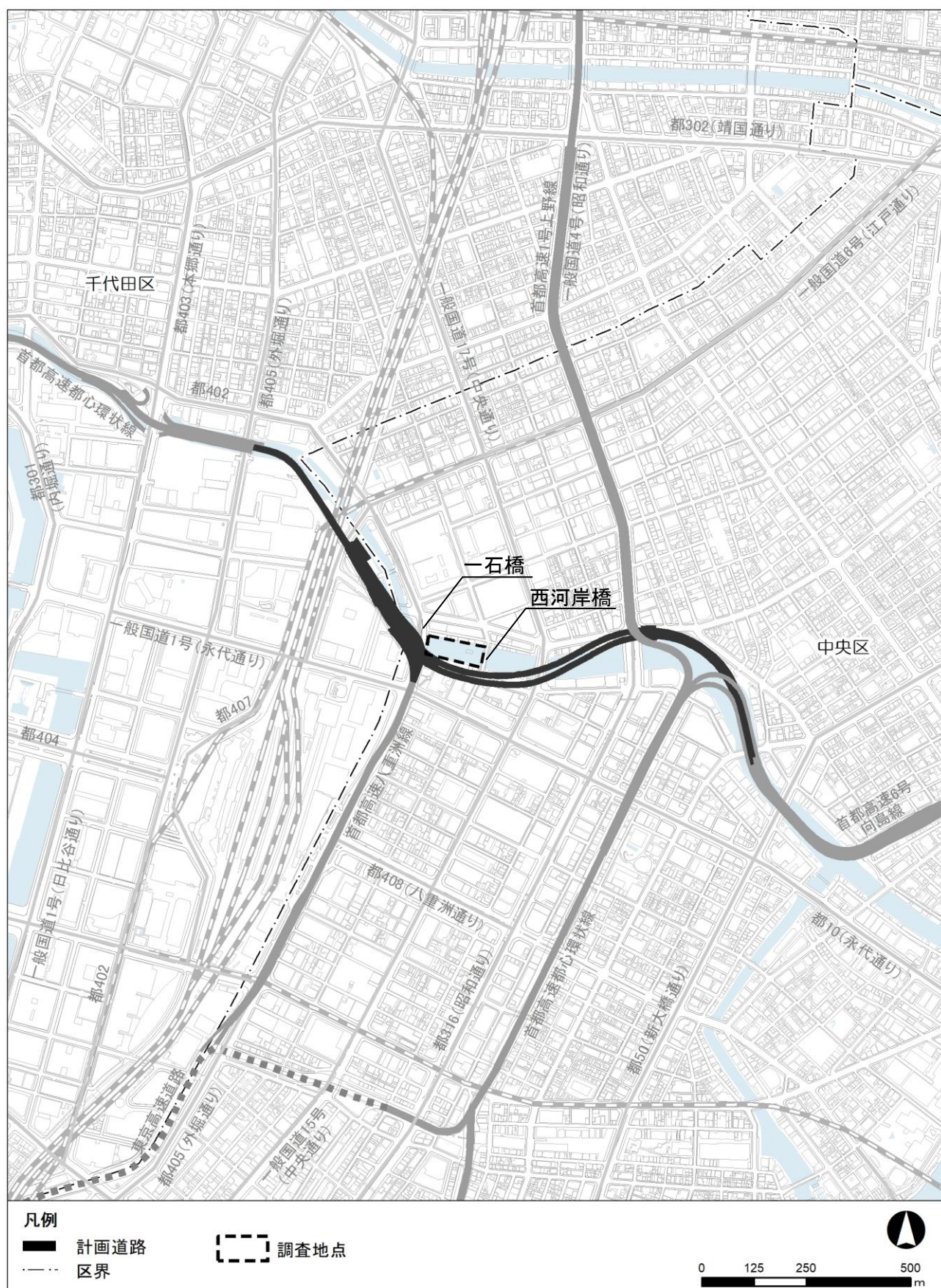
② 現地調査

i．調査地点及び調査期間

調査地点は、工事施工ヤードに含まれる日本橋川の計画道路下流とし、図 7.7-1 に示すとおりです。調査期間は表 7.7-1 に示すとおりとし、平成 30 年の春季から秋季の 3 季としました。

表 7.7-1 現地調査期間

季節	調査期間
春季	平成 30 年 4 月 26 日（木）～27 日（金）
夏季	平成 30 年 7 月 23 日（月）～24 日（火）
秋季	平成 30 年 10 月 22 日（月）～23 日（火）



ii. 調査方法

魚類の調査方法は投網、タモ網を用いた採捕及び刺し網、かご網等の設置漁具による採捕としました。

魚類の調査方法は表 7.7-2 に示すとおりです。

表 7.7-2 魚類の調査方法

調査手法	調査方法
投網、タモ網	調査地点において投網及びタモ網を用いて魚類を採捕しました。 投網は、目合：12mm、18mm、網裾：8～12m、タモ網は目合：2mm、口径：45cm のものを使用しました。
刺し網、かご網	調査地点において、刺し網は一晩、かご網は1時間程度設置した後、網に入っている魚類を採捕しました。 刺し網は、長さ：25m、網丈：1.5m、目合：15mm、50mm、かご網は外径：240×450×230mm、口径：50mm、目合：2mm のものを使用しました。

b. 底生動物の状況

① 既存資料調査

「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）の既存資料を収集・整理しました。

② 現地調査

i. 調査地点及び調査期間

調査地点は、工事施工ヤードに含まれる日本橋川の計画道路下流とし、図 7.7-1 に示すとおりとしました。調査期間は表 7.7-3 に示すとおりとし、平成 30 年の春季から平成 31 年の早春季の 3 季としました。

表 7.7-3 調査期間

季節	調査期間
春季	平成 30 年 4 月 26 日（木）
夏季	平成 30 年 7 月 28 日（土）
早春季	平成 31 年 2 月 21 日（木）

ii. 調査方法

底生動物の調査方法は定量採取法及び定性採取法による方法としました。

底生動物の調査方法は表 7.7-4 に示すとおりです。

表 7.7-4 底生動物の調査方法

調査手法	調査方法
定量採取法	エグマン・バージ式採泥器を用いて 4 回採泥した後、1mm 目のフルイでふるい、フルイ上に残った底生動物を全て採集しました。 各地点で採集したサンプルは一つの容器に収め、10%ホルマリン溶液で固定して持ち帰り、室内で種の同定及び個体数の計数を行いました。
定性採取法	エグマン・バージ式採泥器等を用いて任意採集を行いました。 採集したサンプルは調査地点毎に 10%ホルマリン溶液で固定して持ち帰り室内で種の同定を行いました。

イ. 生息環境

a. 既存資料調査

「平成 29 年度 公共用水域水質測定結果」（平成 30 年 7 月 東京都環境局）等の既存資料を収集・整理しました。

b. 現地調査

① 調査地点及び調査期間

「7.3 水質汚濁」と同様に行いました（7-176 ページ参照）。

② 調査方法

「7.3 水質汚濁」と同様に行いました（7-176 ページ参照）。

ウ. 法令による基準等

「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月 法律第 214 号）、「自然環境保全法」（昭和 47 年 6 月 法律第 85 号）、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月 法律第 75 号）、「東京における自然の保護と回復に関する条例」（平成 12 年 12 月 東京都条例第 216 号）等を整理しました。

(4) 調査結果

ア. 水生生物の状況

a. 魚類の状況

① 既存資料調査

「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）によると、魚類の確認状況は表 7.7-5 に示すとおりであり、13 科 37 種が確認されています。

表 7.7-5 既存資料による注目される種一覧（魚類）

科名	種名	選定基準			
		①	②	③	④
ヤツメウナギ科	スナヤツメ			VU	CR
ウナギ科	ウナギ			EN	VU
コイ科	キンブナ			VU	CR+EN
	ミヤコタナゴ	天然	国内	CR	EX
	ヤリタナゴ			NT	EX
	タナゴ			EN	EX
	アカヒレタビラ			EN	EX
	ゼニタナゴ			CR	EX
	アブラハヤ				VU
	マルタ				留意
	シナイモツゴ			CR	EX
	カマツカ				NT
	ニゴイ				NT
ドジョウ科	シマドジョウ				VU
	ホトケドジョウ			EN	CR+EN
ギギ科	ギバチ			VU	CR
ナマズ科	ナマズ				留意
シラウオ科	イシカワシラウオ				留意
サケ科	サクラマス(降海型), ヤマメ(陸封型)			NT	CR+EN
メダカ科	メダカ			VU	CR+EN
トゲウオ科	ムサシトミヨ			CR	EX
カジカ科	カジカ(カジカ大卵型; 河川陸封型)			NT	留意
ボラ科	メナダ				NT
ハゼ科	トビハゼ			NT	CR
	ボウズハゼ				DD
	シロウオ			VU	DD
	ミズハゼ				VU
	エドハゼ			VU	VU
	ビリンゴ				NT
	ジュズカケハゼ			EN・NT※	VU
	アシシロハゼ				留意
	マサゴハゼ			VU	VU
	ヒメハゼ				NT
	アベハゼ				NT
	スジハゼ				NT
	ヌマチチブ				留意
	チチブ				留意
13 科	37 種	1 種	1 種	20 種	37 種

注 1) 選定基準

選定基準①: 文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号)

特天: 特別天然記念物 天: 天然記念物

選定基準②: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年制定、平成 30 年改正 法律第 75 号)

国内: 国内希少野生動植物種 国際: 国際希少野生動植物種 緊急: 緊急指定種

選定基準③: 環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2018 の公表について(平成 30 年 5 月 環境省)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類

NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

選定基準④: レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版
(平成 25 年 5 月 東京都環境局)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類

NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群 留意: 留意種

※ 亜種ジュズカケハゼ関東固有型: EN、亜種ジュズカケハゼ広域分布種: NT

② 現地調査

魚類相の現地調査結果は、表 7.7-6 に示すとおりです。

現地調査により、調査範囲では 5 科 6 種の魚類が確認されました。

表 7.7-6 現地調査による魚類確認種一覧

科名	種名	調査時期			選定基準			
		春季	夏季	秋季	①	②	③	④
コイ科	マルタ			●				留意
	ウグイ属	△						
アユ科	アユ	●						
ボラ科	ボラ	●		●				
スズキ科	スズキ		●					
ハゼ科	マハゼ		●					
	ウキゴリ	●						
5 科	6 種	4 種	2 種	2 種	0 種	0 種	0 種	1 種

注 1) 選定基準

選定基準①:文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号)

特天:特別天然記念物 天:天然記念物

選定基準②:絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年制定、平成 30 年改正 法律第 75 号)

国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種 緊急:緊急指定種

選定基準③:環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2018 の公表について(平成 30 年 5 月 環境省)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

選定基準④:「レッドデータブック 東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」
(平成 25 年 5 月 東京都環境局)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 IA 類

EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

LP:絶滅のおそれのある地域個体群 留意:留意種

※ 亜種ジュズカケハゼ関東固有型:EN、亜種ジュズカケハゼ広域分布種:NT

③ 注目される種

魚類の注目される種は、表 7.7-7 の選定基準に基づき、既存資料及び現地調査から抽出しました。注目される種の確認状況は、表 7.7-8 に示すとおりです。また、抽出された種の分布・生態的特徴及び確認状況は表 7.7-9 に示すとおりです。

既存資料調査では 13 科 37 種の注目される種が確認されました。現地調査では 1 科 1 種(マルタ)が確認されました。

表 7.7-7 注目される種の選定基準

選定基準
①「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号)に基づく天然記念物等に指定されている種
②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号)において希少野生動植物種に指定されている種
③「環境省レッドリスト 2018 の公表について(平成 30 年 5 月 環境省)」において絶滅、野生絶滅、絶滅危惧、準絶滅危惧、情報不足、絶滅のおそれのある地域個体群に指定されている種
④「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(平成 25 年 5 月 東京都環境局)において絶滅危機、絶滅危惧、絶滅危急、希少、地域個体群、留意種に指定されている種

表 7.7-8 注目される種の確認状況（魚類）

科名	種名	既存 資料	現地 調査	選定基準			
				①	②	③	④
ヤツメウナギ科	スナヤツメ	●				VU	CR
ウナギ科	ウナギ	●				EN	VU
コイ科	キンブナ	●				VU	CR+EN
	ミヤコタナゴ	●		天然	国内	CR	EX
	ヤリタナゴ	●				NT	EX
	タナゴ	●				EN	EX
	アカヒレタビラ	●				EN	EX
	ゼニタナゴ	●				CR	EX
	アブラハヤ	●					VU
	マルタ	●	●				留意
	シナイモツゴ	●				CR	EX
	カマツカ	●					NT
	ニゴイ	●					NT
ドジョウ科	シマドジョウ	●					VU
	ホトケドジョウ	●				EN	CR+EN
ギギ科	ギバチ	●				VU	CR
ナマズ科	ナマズ	●					留意
シラウオ科	イシカワシラウオ	●					留意
サケ科	サクラマス(降海型), ヤマメ (陸封型)	●				NT	CR+EN
メダカ科	メダカ	●				VU	CR+EN
トゲウオ科	ムサシトミヨ	●				CR	EX
カジカ科	カジカ(カジカ大卵型; 河川 陸封型)	●				NT	留意
ボラ科	メナダ	●					NT
ハゼ科	トビハゼ	●				NT	CR
	ボウズハゼ	●					DD
	シロウオ	●				VU	DD
	ミズハゼ	●					VU
	エドハゼ	●				VU	VU
	ピリンゴ	●					NT
	ジュズカケハゼ	●				EN・NT※	VU
	アシシロハゼ	●					留意
	マサゴハゼ	●				VU	VU
	ヒメハゼ	●					NT
	アベハゼ	●					NT
	スジハゼ	●					NT
	ヌマチチブ	●					留意
	チチブ	●					留意
13 科	37 種	37 種	1 種	1 種	1 種	20 種	37 種

注 1) 選定基準

選定基準①: 文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号)

特天: 特別天然記念物 天: 天然記念物

選定基準②: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年制定、平成 30 年改正 法律第 75 号)

国内: 国内希少野生動植物種 国際: 国際希少野生動植物種 緊急: 緊急指定種

選定基準③: 環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2018 の公表について(平成 30 年 5 月 環境省)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類

NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

選定基準④: 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部) 解説版」

(平成 25 年 5 月 東京都環境局)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類

VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

留意: 留意種

※ 亜種ジュズカケハゼ関東固有型: EN、亜種ジュズカケハゼ広域分布種: NT

表 7. 7-9(1) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
スナヤツメ 環境省RL：絶滅危惧II類 東京都RDB：絶滅危惧IA類	体長 20 cm程度。体型は細長く、背面は黒暗色、体表はぬめりがあり、鱗は目視できない。口は漏斗状の形状をしている。一生を淡水で過ごし、幼生期（アンモシーテス幼生）は目がなく泥中に潜り、珪藻などの藻類や微細な有機物を食べる。成魚は胃がなく何も食べない。主に河川の中・下流域に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ウナギ 環境省RL：絶滅危惧IB類 東京都RDB：絶滅危惧IA類	体長 100 cmに達する。体型は細長く、背面は黒暗色、体表はぬめりが強く、鱗は皮下に埋没している。目は小さく、口は大きく眼球より後ろまで切れ込む。海で産卵、ふ化し川へ遡上する「降河回遊」生活形態である。ふ化後の仔魚の体型は平たく、レプトケファルス（葉形幼生）と呼ばれる。川へ遡上する頃には体色は暗黄土色になる。海につながっている河川の河口域から上流域などに生息し、夜行性で礫底や泥底を好み、日中は礫の隙間や泥の中に身を潜める。 現地調査結果では、確認されていない。
キンブナ 環境省RL：絶滅危惧II類 東京都RDB：絶滅危惧I類	体長 15 cm程度。体型は扁平するが他のフナ類と比べると体高は低い。口ひげはなく、背面は黒暗色で側面は黄褐色、鱗がやや粗い。河川の中・下流の緩流域、それに続く用水路、浅い池沼などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ミヤコタナゴ 文化財保護法：天然記念物種の保存法：国内希少野生動植物種 環境省RL：絶滅危惧IA類 東京都RDB：絶滅	体長 5 cm程度。体型は扁平し、1対の口ひげがある。体側の側線は不完全で尾柄までない。湧水を水源とした細流やため池に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ヤリタナゴ 環境省RL：準絶滅危惧 東京都RDB：絶滅	体長 8 cm程度。体型は扁平し、1対の口ひげがある。銀白色が強く、肩部に暗斑は入らず、体側面の緑色線紋は細く不鮮明。流れが緩やかで水草の豊富な河川、湖、池沼、用水路などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
タナゴ 環境省RL：絶滅危惧IB類 東京都RDB：絶滅	体長 6 cm程度。体型は扁平するが体高は低く、1対の口ひげがある。えらの後ろの暗色斑が三角形。流れが緩やかで水草の豊富な河川、湖、池沼、用水路などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
アカヒレタビラ 環境省RL：絶滅危惧IB類 東京都RDB：絶滅	体型は 7 cm程度。体型は扁平し、1対の口ひげがある。オスの尻びれ外縁部は赤色に発色する。流れが緩やかで水草の豊富な河川、湖、池沼、用水路などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ゼニタナゴ 環境省RL：絶滅危惧IA類 東京都RDB：絶滅	体長 10 cm程度。体型は扁平し、口ひげはない。鱗が細かく側線は不完全。河川の中・下流域で比較的流れの穏やかなところや、用水路、湖沼などの中層から下層に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
アブラハヤ 東京都RDB：絶滅危惧II類	体長 15 cm程度。体型は紡錘型で、口ひげはない。鱗が細かく体表のぬめりが強い。河川の中・上流域の淵や淀みに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
マルタ 東京都RDB：留意種	体長 60 cm程度。体型は紡錘型で口ひげはない。オスの婚姻色（赤色縦条）は1本しかない。婚姻色の出していない本種と他のウグイ属との識別は目視では困難である。主に沿岸部から河口部の汽水域に生息し、春の産卵期には川を遡上する。 現地調査結果では、秋季に7個体が確認された。
シナイモツゴ 環境省RL：絶滅危惧IA類 東京都RDB：絶滅	体長 5 cm程度。体型は紡錘型で口ひげはない。側線は不完全で胸びれ上部までしかない。同属のモツゴよりも体高がやや高く胴断面は丸い。平野部の浮葉植物が繁茂するような自然度の高い池沼に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）

表 7.7-9 (2) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
カマツカ 東京都RDB：準絶滅危惧	体長 20 cm程度。体型は紡錘形で1対の口ひげがある。吻は下方に突き出すように伸びる。背面に黒色斑が点在する。主に河川の中・下流域や湖沼の砂底に生息する。生活や繁殖にきれいな砂地を必要とする。 現地調査結果では、確認されていない。
ニゴイ 東京都RDB：準絶滅危惧	体長 20 cm程度。体型は紡錘形で1対の口ひげがある。吻は下方に突き出すように伸びる。主に河川の中・下流域や池沼などに生息するが、汽水域にも生息できる。産卵にきれいな砂礫底を必要とする。 現地調査結果では、確認されていない。
シマドジョウ 東京都RDB：絶滅危惧II類	体長 10 cm程度。体型は細長く、体側に黒暗色の縞模様がある。3対の口ひげがあり、体表はぬめりが強い。河川の中流域の砂礫底に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ホトケドジョウ 環境省RL：絶滅危惧IB類 東京都RDB：絶滅危惧I類	体長 6 cm程度。体型は細長い紡錘形。4対の口ひげがあり、体表はぬめりが強い。水温が低く流れの緩やかな河川や湿地、水田などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ギバチ 環境省RL：絶滅危惧II類 東京都RDB：絶滅危惧IA類	体長 22 cm程度。体型は細長く鱗はなく、体表にぬめりがある。4対の口ひげがあり、尾びれの後縁の切れ込みは浅い。流れがあり比較的水質も良い河川の中流域から上流域下部に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ナマズ 東京都RDB：留意種	体長 70 cm程度。体型は細長く鱗はなく、体表にぬめりがある。扁平した頭に大きな口に4対の口ひげがあり、尾びれ後縁の切れ込みは浅い。流れの緩やかな河川、湖沼、水田、用水路に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
イシカワシラウオ 東京都RDB：留意種	体長 7 cm程度。体型は細長く、体色は半透明な白色。口ひげはなく、あぶらびれがある。主に外海に面する沿岸に生息する。水温の高いときには汽水域に入ることもある。 現地調査結果では、確認されていない。
サクラマス（降海型）、 ヤマメ（陸封型） 環境省RL：準絶滅危惧 東京都RDB：絶滅危惧I類	体長サクラマス 50 cm程度、ヤマメ 30 cm程度。サクラマスの体型は紡錘形で銀白色、あぶらびれがある。ヤマメの体型は扁平した紡錘形で、体側に紫暗色の斑紋が点在しあぶらびれがある。 現地調査結果では、確認されていない。
メダカ 環境省RL：準絶滅危惧II類 東京都RDB：絶滅危惧I類	体長 3 cm程度。体型は紡錘形で、頭部はやや扁平する。尾びれは湾入せず目が大きく、口は上を向き小さく口ひげがない。流れの緩やかな河川や水路などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ムサシトミヨ 環境省RL：絶滅危惧IA類 東京都RDB：絶滅	体長 5 cm程度。体型は扁平した紡錘形。背びれに8～9本のとげ、尾柄に鱗板がある。体色は緑の強い暗緑色。 現地調査結果では、確認されていない。
カジカ（カジカ大卵型； 河川陸封型） 環境省RL：準準絶滅危惧 東京都RDB：留意種	体長 13 cm程度。体型は紡錘形で、頭部は丸く、川底に這うような体型。口は大きく口ひげはなく、背面には暗褐色の鞍状斑紋がある。河川の中・上流域の礫底に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
メナダ 東京都RDB：留意種	体長 70 cm程度。体型は紡錘形で、頭部は扁平する。尾びれはあまり湾入せず、眼球の周辺が赤く、口ひげはない。河口域や干潟などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
トビハゼ 環境省RL：準準絶滅危惧 東京都RDB：絶滅危惧IA類	体長 8 cm程度。細長い紡錘形で、干潟を歩くような体型。頭部は丸く眼球が突き出す。口ひげはなく、体側には暗褐色の斑紋と小さな白点がある。汽水域の泥干潟に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）

表 7.7-9 (3) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
ボウズハゼ 東京都RDB：情報不足	体長 15 cm程度。体型は細長い紡錘形で、頭部は丸く厚い唇に口ひげはない。体側に暗色横帯がありぬめりがある。腹びれと口は吸盤状になっている。河口域から上流域まで全域に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
シロウオ 環境省RL：絶滅危惧II類 東京都RDB：情報不足	体長 5 cm程度。体型は細長く、透明で腹腔や浮き袋が透けて見え鱗も側線もない。口ひげはない。沿岸の浅い海に生息し、早春には成魚が河川の下流域に遡上して産卵する。 現地調査結果では、確認されていない。
ミミズハゼ 東京都RDB：絶滅危惧II類	体長 8 cm程度。体型は細長く円筒状、ぬめりがある。口ひげはない。河川の汽水域や下流域から海岸の潮間帯まで広く生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
エドハゼ 環境省RL：絶滅危惧II類 東京都RDB：絶滅危惧II類	体長 4 cm程度。体型は細長い紡錘形で、下顎下部にひげ状突起がない。河川の汽水域から内湾の干潟に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ビリンゴ 東京都RDB：準絶滅危惧	体長 5 cm程度。体型は細長い紡錘形で体側に暗色横斑がある。腹びれは吸盤状になっている。河川の感潮域の砂泥底に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ジュズカケハゼ 環境省RL：絶滅危惧IB類 (ムサシノジュズカケハゼ)、準絶滅危惧(ジュズカケハゼ) 東京都RDB：絶滅危惧II類	体長 5 cm程度。体型は細長い紡錘形で体側に暗色横斑がある。産卵期には雌の婚姻色が顕著で、ひれが黒くなり体側の黄色帯が鮮やかになる。河川の中・下流域や湖沼、湧水、堀などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
アシシロハゼ 東京都RDB：留意種	体長 9 cm程度。体型は細長い紡錘形で頭がやや丸い。体側に暗色斑がある。河川の汽水域から内湾に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
マサゴハゼ 環境省RL：絶滅危惧II類 東京都RDB：絶滅危惧II類	体長 3 cm程度。体型は細長い紡錘形で頭がやや丸い。体側に暗色斑がある。河川の汽水域から内湾に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ヒメハゼ 東京都RDB：準絶滅危惧	体長 9 cm程度。体型は細長い紡錘形で尾柄が細い。体側に暗色斑がある。河口域やそれに続く干潟に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
アベハゼ 東京都RDB：準絶滅危惧	体長 4 cm程度。体型は細長い紡錘形で頭は丸い。体側に暗色斑と尾びれに向かって伸びる2本の黒褐色縦帯がある。河川の汽水域の泥底に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
スジハゼ 東京都RDB：準絶滅危惧	体長 5 cm程度。体型は細長い紡錘形で頭は丸い。ぬめりがあり鱗は目立たない。体側に暗色斑がある。河川の汽水域から沿岸の浅い海域に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ヌマチチブ 東京都RDB：留意種	体長 13 cm程度。体型は細長い紡錘形で頭は丸い。体側に青白色点が点在する。河川の中流域から汽水域、ため池などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
チチブ 東京都RDB：留意種	体長 13 cm程度。体型は細長い紡錘形で頭は丸い。体側に青白色点が点在する。胸びれ付け根の黄斑に橙色線がない。内湾や河川の汽水域に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）

b. 底生動物の状況

① 既存資料調査

「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）によると、底生動物の確認状況は表 7.7-10 に示されており、44 科 130 種が確認されています。

表 7. 7-10(1) 既存資料による注目される種一覧（底生動物）

科名	種名	選定基準			
		①	②	③	④
アオイトンボ科	ホソミオツネトンボ				NT
	コバネアオイトンボ			EN	EX
	オツネトンボ				EN
イトトンボ科	キイトンボ				EN
	ベニイトンボ			NT	VU
	ヒヌマイトンボ			EN	CR
	モートンイトンボ			NT	EX
	セスジイトンボ				CR
	オオセスジイトンボ			EN	CR
	オオイトンボ				CR
モノサシトンボ科	モノサシトンボ				DD
	オオモノサシトンボ			EN	CR
	ゲンバイトンボ			NT	EX
カワトンボ科	ハグロトンボ				VU
	アオハダトンボ			NT	EX
	ニホンカワトンボ				EX
ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ			NT	CR
	アオヤンマ			NT	EN
	マダラヤンマ			NT	EX
	コシボソヤンマ				EX
	カトリヤンマ				CR
	ミルンヤンマ				DD
	サラサヤンマ				CR
サナエトンボ科	ヤマサナエ				EX
	キイロサナエ			NT	EX
	ダビドサナエ				EX
	オナガサナエ				NT
	アオサナエ				EX
	ホンサナエ				CR
	コオニヤンマ				NT
	ヒメサナエ				EX
	ナゴヤサナエ			VU	DD
	メガネサナエ			VU	EX
	コサナエ				CR
オニヤンマ科	オニヤンマ				NT
エゾトンボ科	トラフトンボ				CR
	コヤマトンボ				DD
	ハネビロエゾトンボ			VU	EX
	エゾトンボ				EX
トンボ科	ベッコウトンボ		国内	CR	EX
	ヨツボシトンボ				EN
	ハラビロトンボ				VU
	シオヤトンボ				VU
	チョウトンボ				NT
	キトンボ				EX
	マイコアカネ				NT
	ヒメアカネ				DD
	ミヤマアカネ				VU
	リスアカネ				NT
	オオキトンボ			EN	EX

表 7.7-10 (2) 既存資料による注目される種一覧 (底生動物)

科名	種名	選定基準			
		①	②	③	④
アメンボ科	オオアメンボ				CR
	エサキアメンボ			NT	DD
	ババアメンボ			NT	DD
	ハネナシアメンボ				DD
	シマアメンボ				NT
ミズムシ科	ホッケミズムシ			NT	DD
	ミヤケミズムシ			NT	DD
コオイムシ科	コオイムシ			NT	CR
	タガメ			VU	EX
タイコウチ科	タイコウチ				EX
	ミズカマキリ				NT
	ヒメミズカマキリ				CR
コバンムシ科	コバンムシ			EN	EX
ヘビトンボ科	クロスジヘビトンボ				DD
	ヤマトクロスジヘビトンボ				CR
センブリ科	ネグロセンブリ				DD
ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ			NT	EX
	ゲンゴロウ(ナミゲンゴロウ)			VU	EX
	コガタノゲンゴロウ			VU	EX
	シャープゲンゴロウモドキ		国内	CR	EX
	マルガタゲンゴロウ			VU	EX
	シマゲンゴロウ			NT	EX
	ウスイロシマゲンゴロウ				EN
	キベリクロヒメゲンゴロウ			NT	EN
ミズスマシ科	オオミズスマシ			NT	EN
	コミズスマシ			EN	EX
	ミズスマシ			VU	CR
ホソガムシ科	ヤマトホソガムシ			NT	DD
ガムシ科	コガムシ			DD	EN
	ガムシ			NT	EX
	マメガムシ				EN
	ヒメガムシ				VU
ヒメドロムシ科	アヤスジミゾドロムシ			EN	留意
ナガドロムシ科	タマガワナガドロムシ				留意
ホタル科	ゲンジボタル				EN
	ヘイケボタル				EN
ヌカエビ科	ヌカエビ				留意
テナガエビ科	テナガエビ				留意
	ユビナガスジエビ				留意
	シラタエビ				留意
	スジエビ				留意
サワガニ科	サワガニ				留意
ベンケイガニ科	クロベンケイガニ				留意
	カクベンケイガニ				留意
	ベンケイガニ				留意
モクズガニ科	モクズガニ				留意
	アシハラガニ				留意
	ケフサイソガニ				留意
コメツキガニ科	チゴガニ				留意
	コメツキガニ				留意
オサガニ科	ヤマトオサガニ				留意

表 7.7-10 (3) 既存資料による注目される種一覧(底生動物)

科名	種名	選定基準			
		①	②	③	④
ユキノカサガイ科	ツボミガイ				EX
タニシ科	マルタニシ			VU	CR+EN
	オオタニシ			NT	CR+EN
ウミニナ科	ウミニナ			NT	EX
	イボウミニナ			VU	EX
キバウミニナ科	フトヘナタリ				EX
	クロヘナタリ				EX
	ヘナタリ				EX
	カワアイ				EX
ワカウラツボ科	カワグチツボ			NT	留意
カワザンショウガイ科	ヨシダカワザンショウ			NT	VU
	ムシヤドリカワザンショウ			NT	DD
エゾマメタニシ科	マメタニシ			VU	CR+EN
ミズゴマツボ科	ウミゴマツボ(エドガワミズゴマツボ)				留意
	ミズゴマツボ			VU	DD
モノアラガイ科	モノアラガイ			NT	VU
ヒラマキガイ科	カワネジガイ			CR	EX
	ヒダリマキモノアラガイ			CR+EN	EX
	ヒラマキミズマイマイ			DD	CR+EN
	ハブタエヒラマキ			DD	CR+EN
	トウキョウヒラマキ			DD	VU
	ヒラマキガイモドキ			NT	CR+EN
イシガイ科	カラスガイ			NT	CR+EN
	マツカサガイ			NT	CR+EN
	タガイ				CR+EN
フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ			NT	EX
シジミ科	ヤマトシジミ			NT	留意
	マシジミ			VU	CR+EN
ハナグモリ科	ハナグモリガイ				DD
44 科	130 種	0 種	2 種	59 種	130 種

注 1) 選定基準

選定基準①: 文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号)

特天: 特別天然記念物 天: 天然記念物

選定基準②: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年制定、平成 30 年改正 法律第 75 号)

国内: 国内希少野生動植物種 国際: 国際希少野生動植物種 緊急: 緊急指定種

選定基準③: 環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2018 の公表について(平成 30 年 5 月 環境省)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類

NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

選定基準④: レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版(平成 25 年 5 月 東京都環境局)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類

NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群 留意: 留意種

② 現地調査

底生動物の現地調査結果は、表 7.7-11 のとおりです。

これによると、調査範囲で確認された種は春季で 17 科 30 種、夏季で 13 科 15 種、早春で 9 科 9 種、合計 24 科 40 種です。ただし、フジツボ科、ドロソコエビ属、チョウバエ科、ユスリカ科については、正確な種の特정이困難なため、種数に含めていません。

表 7.7-11 現地調査による底生動物確認種一覧

門	綱	目	科	和 名	調査時期			注目される種	
					春季	夏季	早 春季	①	②
紐形動物門	-	-	-	紐形動物門	●				
軟体動物門	二枚貝綱	イガイ目	イガイ科	コウロエンカワヒバリガイ		●			
		マルスダレガイ目	カワホトトギス科	イガイダマシ		●	●		
環形動物門	ゴカイ綱	サシバゴカイ目	ウロコムシ科	ウロコムシ科			●		
			サシバゴカイ科	Eteone 属	●				
			ゴカイ科	アシナガゴカイ	●	●	●		
		スピオ目	スピオ科	Carazziella 属		●			
				Polydora 属	●		●		
				ヤマトスピオ	●				
		イトゴカイ目	イトゴカイ科	Capitella 属	●		●		
				Notomastus 属		●			
		ケヤリムシ目	カンザシゴカイ科	カニヤドリカンザシゴカイ	●	●	●		
	ミミズ綱	イトミミズ目	ミズミミズ科	ミズミミズ科	●	●	●		
		ツリミミズ目	-	ツリミミズ目	●				
	ヒル綱	吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル	●				
節足動物門	顎脚綱	フジツボ目	フジツボ科	アメリカフジツボ		●			
				シロスジフジツボ	●	●	●		
				ドロフジツボ	●				
				フジツボ科	△		△		
	軟甲綱	ヨコエビ目	ユンボソコエビ科	ニッポンドロソコエビ			●		
				ドロソコエビ属			△		
			ドロクダムシ科	Monocorophium 属		●			
			マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	●				
		エビ目	テナガエビ科	テナガエビ科		●			
			モクズガニ科	モクズガニ	●				留意
	昆虫綱	カゲロウ目	コカゲロウ科	ウデマガリコカゲロウ	●				
		トンボ目	トンボ科	シオカラトンボ	●				
		トビケラ目	ヒメトビケラ科	Hydroptila 属		●			
		ハエ目	チョウバエ科	Pericoma 属	●				
				Psychoda 属	●				
				チョウバエ科	△	△			
			ユスリカ科	Cardiocladius 属	●				
				Chironomus 属	●	●			
				Eukiefferiella 属	●				
				Nanocladius 属	●				
				Neozavrelia 属	●				
				Orthocladius 属	●				
				Paratanytarsus 属	●				
				Polypedilum 属	●	●			
				Rheotanytarsus 属	●				
				Tanytarsus 属	●				
				Tvetenia 属	●				
				ユスリカ科	△				
			ハナアブ科	ハナアブ科	●				
4 門	8 綱	17 目	24 科	40 種	30 種	15 種	9 種	0 種	1 種

注 1) 選定基準

選定基準①: 環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2018 の公表について(平成 30 年 5 月 環境省)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧
DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

選定基準②: 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部) 解説版」

(平成 25 年 5 月 東京都環境局)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類

VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群 留意: 留意種

③ 注目される種

底生動物の注目される種は、表 7.7-12 の選定基準に基づき、既存資料及び現地調査から抽出した。注目される種の確認状況は、表 7.7-13 に示すとおりです。また、抽出された種の分布・生態的特徴及び確認状況は表 7.7-14 のとおりです。

既存資料調査では 44 科 130 種の注目される種が確認され、現地調査では 1 科 1 種(モクズガニ)が確認されました。

表 7.7-12 注目される種の選定基準

選定基準
①「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号)に基づく天然記念物等に指定されている種
②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号)において希少野生動植物種に指定されている種
③「環境省レッドリスト 2018 の公表について(平成 30 年 5 月 環境省)」において絶滅、野生絶滅、絶滅危惧、準絶滅危惧、情報不足、絶滅のおそれのある地域個体群に指定されている種
④「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(平成 25 年 5 月 東京都環境局)において絶滅危機、絶滅危惧、絶滅危急、希少、地域個体群、留意種に指定されている種

表 7.7-13(1) 注目される種の確認状況(底生動物)

科名	種名	既存 資料	現地 調査	選定基準			
				①	②	③	④
アオイトンボ科	ホソミオツネトンボ	●					NT
	コバネアオイトンボ	●				EN	EX
	オツネトンボ	●					EN
イトトンボ科	キイトンボ	●					EN
	ベニイトンボ	●				NT	VU
	ヒヌマイトンボ	●				EN	CR
	モートンイトンボ	●				NT	EX
	セスジイトンボ	●					CR
	オオセスジイトンボ	●				EN	CR
	オオイトンボ	●					CR
		●					CR
モノサシトンボ科	モノサシトンボ	●					DD
	オオモノサシトンボ	●				EN	CR
	グンバイトンボ	●				NT	EX
カワトンボ科	ハグロトンボ	●					VU
	アオハダトンボ	●				NT	EX
	ニホンカワトンボ	●					EX
ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	●				NT	CR
	アオヤンマ	●				NT	EN
	マダラヤンマ	●				NT	EX
	コシボソヤンマ	●					EX
	カトリヤンマ	●					CR
	ミルンヤンマ	●					DD
	サラサヤンマ	●					CR
		●					CR
サナエトンボ科	ヤマサナエ	●					EX
	キイロサナエ	●				NT	EX
	ダビドサナエ	●					EX
	オナガサナエ	●					NT
	アオサナエ	●					EX
	ホンサナエ	●					CR
	コオニヤンマ	●					NT
	ヒメサナエ	●					EX
	ナゴヤサナエ	●				VU	DD
	メガネサナエ	●				VU	EX
	コサナエ	●					CR
		●					CR
オニヤンマ科	オニヤンマ	●					NT
エゾトンボ科	トラフトンボ	●					CR
	コヤマトンボ	●					DD
	ハネビロエゾトンボ	●				VU	EX
	エゾトンボ	●					EX
トンボ科	ベッコウトンボ	●			国内	CR	EX
	ヨツボシトンボ	●					EN
	ハラビロトンボ	●					VU
	シオヤトンボ	●					VU
	チョウトンボ	●					NT
	キトンボ	●					EX
	マイコアカネ	●					NT
	ヒメアカネ	●					DD
	ミヤマアカネ	●					VU
	リスアカネ	●					NT
	オオキトンボ	●				EN	EX
		●					EX

表 7.7-13 (2) 注目される種の確認状況 (底生動物)

科名	種名	既存 資料	現地 調査	選定基準			
				①	②	③	④
アメンボ科	オオアメンボ	●					CR
	エサキアメンボ	●				NT	DD
	ババアメンボ	●				NT	DD
	ハネナシアメンボ	●					DD
	シマアメンボ	●					NT
ミズムシ科	ホッケミズムシ	●				NT	DD
	ミヤケミズムシ	●				NT	DD
コオイムシ科	コオイムシ	●				NT	CR
	タガメ	●				VU	EX
タイコウチ科	タイコウチ	●					EX
	ミズカマキリ	●					NT
	ヒメミズカマキリ	●					CR
コバンムシ科	コバンムシ	●				EN	EX
ヘビトンボ科	クロスジヘビトンボ	●					DD
	ヤマトクロスジヘビトンボ	●					CR
センブリ科	ネグロセンブリ	●					DD
ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ	●				NT	EX
	ゲンゴロウ(ナミゲンゴロウ)	●				VU	EX
	コガタノゲンゴロウ	●				VU	EX
	シャープゲンゴロウモドキ	●			国内	CR	EX
	マルガタゲンゴロウ	●				VU	EX
	シマゲンゴロウ	●				NT	EX
	ウスイロシマゲンゴロウ	●					EN
	キベリクロヒメゲンゴロウ	●				NT	EN
ミズスマシ科	オオミズスマシ	●				NT	EN
	コミズスマシ	●				EN	EX
	ミズスマシ	●				VU	CR
ホソガムシ科	ヤマトホソガムシ	●				NT	DD
ガムシ科	コガムシ	●				DD	EN
	ガムシ	●				NT	EX
	マメガムシ	●					EN
	ヒメガムシ	●					VU
ヒメドロムシ科	アヤスジミゾドロムシ	●				EN	留意
ナガドロムシ科	タマガワナガドロムシ	●					留意
ホタル科	ゲンジボタル	●					EN
	ヘイケボタル	●					EN
ヌマエビ科	ヌカエビ	●					留意
テナガエビ科	テナガエビ	●					留意
	ユビナガスジエビ	●					留意
	シラタエビ	●					留意
	スジエビ	●					留意
サワガニ科	サワガニ	●					留意
ベンケイガニ科	クロベンケイガニ	●					留意
	カクベンケイガニ	●					留意
	ベンケイガニ	●					留意
モクズガニ科	モクズガニ	●	●				留意
	アシハラガニ	●					留意
	ケフサイソガニ	●					留意
コメツキガニ科	チゴガニ	●					留意
	コメツキガニ	●					留意
オサガニ科	ヤマトオサガニ	●					留意

表 7.7-13 (3) 注目される種の確認状況(底生動物)

科名	種名	既存 資料	現地 調査	選定基準			
				①	②	③	④
ユキノカサガイ科	ツボミガイ	●					EX
タニシ科	マルタニシ	●				VU	CR+EN
	オオタニシ	●				NT	CR+EN
ウミニナ科	ウミニナ	●				NT	EX
	イボウミニナ	●				VU	EX
キバウミニナ科	フトヘナタリ	●					EX
	クロヘナタリ	●					EX
	ヘナタリ	●					EX
	カワアイ	●					EX
ワカウラツボ科	カワグチツボ	●				NT	留意
カワザンショウガイ科	ヨシダカワザンショウ	●				NT	VU
	ムシヤドリカワザンショウ	●				NT	DD
エゾマメタニシ科	マメタニシ	●				VU	CR+EN
ミズゴマツボ科	ウミゴマツボ(エドガワミズゴマツボ)	●					留意
	ミズゴマツボ	●				VU	DD
モノアラガイ科	モノアラガイ	●				NT	VU
ヒラマキガイ科	カワネジガイ	●				CR	EX
	ヒダリマキモノアラガイ	●				CR+EN	EX
	ヒラマキミズマイマイ	●				DD	CR+EN
	ハブタエヒラマキ	●				DD	CR+EN
	トウキョウヒラマキ	●				DD	VU
	ヒラマキガイモドキ	●				NT	CR+EN
イシガイ科	カラスガイ	●				NT	CR+EN
	マツカサガイ	●				NT	CR+EN
	タガイ	●					CR+EN
フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ	●				NT	EX
シジミ科	ヤマトシジミ	●				NT	留意
	マシジミ	●				VU	CR+EN
ハナグモリ科	ハナグモリガイ	●					DD
44 科	130 種	130 種	1 種	0 種	2 種	59 種	130 種

注 1) 選定基準

選定基準①:文化財保護法(昭和 25 年 法律第 214 号)

特天:特別天然記念物 天:天然記念物

選定基準②:絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年制定、平成 30 年改正 法律第 75 号)

国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種 緊急:緊急指定種

選定基準③:環境省報道発表資料 環境省レッドリスト 2018 の公表について(平成 30 年 5 月 環境省)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

選定基準④:レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版

(平成 25 年 5 月 東京都環境局)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 IA 類 EN:絶滅危惧 IB 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 留意:留意種

表 7.7-14 (1) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
ホソミオツネトンボ 東京都 RDB：準絶滅危惧	腹長 28～32mm。未熟な個体は淡い褐色の地に鈍い銅金色の斑紋がある。成熟すると♂は全身が鮮やかな青色、♀ではくすんだ青緑色となる。オツネトンボとは、静止した状態で前翅と後翅の縁紋がずれて重なることで区別できる。夏から見られ、成虫で越冬する。 現地調査結果では、確認されていない。
コバネアオイトトンボ 環境省 RL：絶滅危惧 IB 類 東京都 RDB：絶滅	腹長 28～33mm。♂♀ともに地色は黄白色で、翅胸背面は金属光沢を持つ緑色。アオイトトンボの未熟個体と紛らわしいが、成熟しても翅胸には粉をまとわないことや、後頭部の後ろ側が黄白色であることなどで区別される。初夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
オツネトンボ 東京都 RDB：絶滅危惧 IB 類	腹長 26～31mm。淡い褐色の地に鈍い銅金色の斑紋がある。静止した状態で前翅と後翅の縁紋がきれいに重なり合う。成熟しても体色はほとんど変化しないが、複眼は鮮やかな青白色となる。初夏から見られ、成虫で越冬する。 現地調査結果では、確認されていない。
キイトトンボ 東京都 RDB：絶滅危惧 IB 類	腹長 23～35mm。太身で♀の方がわずかに大型。♂の腹部は鮮やかな黄色で、末端部の背面には黒斑がある。♀は斑紋がなく、全身が黄色の個体と緑色の個体がある。初夏から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ベニイトトンボ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅危惧 II 類	腹長 27～33mm。やや太身で♀の方がわずかに大型。体に斑紋はなく、♂は全身が鮮やかな朱赤色、♀はややくすんだ燈赤色。初夏から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ヒヌマイトンボ 環境省 RL：絶滅危惧 IB 類 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	腹長 18～24mm。頭部眼後紋は 4 個に分かれ、♂の前胸には 4 個の円紋がある。未熟♀は全身燈色で頭頂には五角形をした特徴的な黒斑があり、成熟すると全身褐色となる。初夏から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
モートンイトトンボ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	腹長 18～24mm。頭部眼後紋は弧状。成熟♂の腹部末端数節は鮮やかな燈赤色。未熟♀は全身燈色であるが、成熟すると鮮緑色となる。春から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
セスジイトトンボ 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	腹長 21～29mm。♀の方がやや大型。成熟♂は鮮やかな淡青色の地に黒斑がある。♀は黄緑～黄褐色の地に黒斑があるが、同属他種に酷似する。春から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
オオセスジイトトンボ 環境省 RL：絶滅危惧 IB 類 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	腹長 29～37mm。成熟♂は鮮やかな淡青色、♀は鮮やかな黄緑色の地に黒斑がある。本属中の最大種で、その大きさから同定は容易。初夏から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
オオイトトンボ 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	腹長 22～29mm。成熟♂は鮮やかな淡青色の地に黒斑がある。♀は黄緑～黄褐色の地に黒斑があり、淡青色の個体も比較的に見られるが、同属他種に酷似する。春から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
モノサシトンボ 東京都 RDB：情報不足	腹長 31～39mm。♂の中・後脚の脛節はやや広がるが、グンバイトンボのように目立たない。腹節ごとにリング状の斑紋があり、和名の由来はこれを物差し等の間隔の目盛りに見立てたことによる。初夏から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）

表 7.7-14 (2) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
オオモノサシトンボ 環境省 RL：絶滅危惧 IB 類 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	腹長 33～37mm。モノサシトンボよりやや大型。体の黒色部が広く黒ずんで見えること、腹部背面の黒色部は末端までであることなどで区別される。初夏から夏まで見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
グンバイトンボ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	腹長 31～33mm。近縁種モノサシトンボより小型で、♂の中・後脚の脛節が著しく広がる。初夏から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ハグロトンボ 東京都 RDB：絶滅危惧 II 類	腹長 40～48mm。♂の翅はつやのある黒色で、腹部まで緑色の強い金属光沢がある。♀の翅と腹部は濃褐色。アオハダトンボとは、♂♀ともに翅の前縁に緑色の強い金属光沢はないこと、♀の翅に偽縁紋はないことなどで区別される。初夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
アオハダトンボ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	腹長 40～48mm。♂の翅は紺色、表側は青藍色で、腹部まで緑色の強い金属光沢がある。♀の翅には白い偽縁紋がありよく目立つ。春から初夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ニホンカワトンボ 東京都 RDB：絶滅	腹長 37～44mm。成熟♂では白い粉をまとう。♂の翅は透明な型と、基部を除いて橙色の型の 2 型がある。♀の翅は例外なく透明。アサヒナカワトンボとは形態的に酷似する。本種は武蔵野台地周辺から多摩丘陵(おそらく狭山丘陵も)、アサヒナカワトンボは南多摩の山地周辺、西多摩の丘陵地から山地に記録がある。多摩丘陵では八王子市西部付近に両種の分布境界があるものと推定される。春から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ネアカヨシヤンマ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	腹長 54～63mm。太身で寸胴型、黒地に黄緑色斑がある。成熟個体の複眼は青藍色で中央部は濃色。翅の付根は橙色、未熟な個体ほど鮮やかで♀では前半部まで橙色となる個体もある。翅端部は褐色。初夏から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
アオヤンマ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅危惧 IB 類	腹長45～51mm。太身で寸胴型、全身鮮やかな緑色で成熟♂は青みがかかる。成熟個体の複眼は淡緑色で中央部は青色、裏側は水色。春から初夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
マダラヤンマ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	腹長 46～50mm。成熟個体の翅胸側面の条は黄緑色で上方は青みが強い。♂では腹部に鮮やかな青色の斑紋があり、複眼も鮮やかな青色。♀では緑色となるが、♂と同じく青色となる個体も多い。稀に黄色の個体も見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
コシボソヤンマ 東京都 RDB：絶滅	腹長 52～65mm。褐色の地に黄緑色斑がある。複眼は大きく、成熟個体では緑色。腹部第 3 節が極端にくびれ、♂では顕著。翅脈や縁紋は褐色で、成熟♂は翅端部に褐色斑がある。夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
カトリヤンマ 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	腹長 54～60mm。細身で腹部第 3 節のくびれも強い。成熟個体では翅胸は緑色、腹部第 2 節は♂では青色、♀では緑色。複眼は大きく、成熟個体では緑色で前半が青みがかかる。♀尾毛は長くてまろく老熟個体では大半が折損する。夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(平成 25 年 5 月 東京都環境局)

表 7.7-14 (3) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
ミルンヤンマ 東京都 RDB：情報不足	腹長 49～56mm。♀の方が太身でやや小さい。黒色の地に黄緑色斑がある。成熟個体の複眼は青緑色で頭部後頭楯は黄色。翅は無斑だが、♀では結節付近や前縁に細い褐色の帯が現れる個体もある。夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
サラサヤンマ 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	腹長 41～47mm。黒地に黄色斑がある。♂は成熟すると黄色斑が蛍光色を帯びた緑色となる。特に腹部背面の斑紋は鮮やか。未熟♀は翅の基部、個体によっては前縁から翅端付近まで広く橙色を帯びる。成熟後も色が残る個体もある。春から初夏の短い時期に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ヤマサナエ 東京都 RDB：絶滅	腹長 44～48mm。キイロサナエに酷似するが、頭部上唇に黄斑がないことや、胸部の斑紋が異なることで区別される。♀の産卵弁は板状で短く、腹部側面から見た状態で目立たない。春から初夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
キイロサナエ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	腹長 43～49mm。ヤマサナエに酷似するが、普通は頭部上唇に 2 個の黄斑があることや、胸部の斑紋の違いで区別される。♀の産卵弁はくさび状で長く、側面から見ると下方に突き出す。春から初夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ダビドサナエ 東京都 RDB：絶滅	腹長 31～36mm。クロサナエに酷似するが、翅胸側面の気門周辺まで黄色条が達すること、頭部大顎基部側面に黄褐色部があることなどで区別される。春から初夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
オナガサナエ 東京都 RDB：準絶滅危惧	腹長 39～46mm。アオサナエよりも細身で黒地に黄色斑がある。♂は尾部付属器が長く、特徴的な形を呈する。初夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
アオサナエ 東京都 RDB：絶滅	腹長 37～43mm。やや太身で翅胸前面と側面の条は著しく太く、成熟すると黄緑色となる。特に♂では鮮やかな緑色になることで容易に区別できる。春から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ホンサナエ 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	腹長 33～36mm。体つきが著しく太短い。黒地に黄色斑があり老熟すると灰緑色となる。翅胸前面の条は太く上下端が曲がり Z 字型となる。春から初夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
コオニヤンマ 東京都 RDB：準絶滅危惧	腹長 53～66mm。黒地に黄色斑があり老熟すると灰緑色となる。頭が小さく、後脚腿節が著しく長く太い。初夏から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ヒメサナエ 東京都 RDB：絶滅	腹長 18～21mm。小型で細身。翅胸前面の上部に丸みをおびた三角形の斑紋があり、条は八字型でその他の斑紋とはつながらない。♂の上付属器と♀の尾毛は白色。初夏から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ナゴヤサナエ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：情報不足	腹長 42～46mm。♂の腹端は顕著に、♀でもやや広がる。その下面は鮮やかな黄色である。メガネサナエに酷似するが、やや小型であり、腹部の黄斑は上下に分かれずリング状となる。初夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）

表 7.7-14 (4) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
メガネサナエ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：絶滅	腹長 44～49mm。黒地に黄色斑があり老熟すると灰緑色となる。♂の腹端は顕著に、♀でもやや広がる。その下面は鮮やかな黄色である。ナゴヤサナエに酷似するが、腹部の黄斑は上下に分かれるため背面から見るとスポット状となる。初夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
コサナエ 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	腹長 26～32mm。他の小型サナエトンボ類とは翅胸前面の条が太い L 字型であることや、翅胸の斑紋、尾部付属器の形状などで区別される。春から初夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
オニヤンマ 東京都 RDB：準絶滅危惧	腹長 60～86mm。黒地に黄色斑がある。左右の複眼は一点で接し、♀は長大な産卵管を持つ。初夏から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
トラフトンボ 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	腹長 34～39mm。燈褐色の地に黄色斑がある。翅胸は毛深く、腹部背面は黒色で各節の両脇に黄色斑が並ぶ。♂の翅は無斑だが、♀には前縁に黒褐色のバンドが現れる。発現の程度には個体差があり、極めて濃色の個体から、ほとんど透明となる個体までである。 現地調査結果では、確認されていない。
コヤマトンボ 東京都 RDB：情報不足	腹長 49～57mm。翅胸には青緑色の金属光沢があり、明瞭な黄色条がある。腹部基部の黄色斑は斜めに途切れない。頭部顔面の黄色条は 1 本。複眼は成熟個体では緑色。春から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ハネビロエゾトンボ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：絶滅	腹長 41～50mm。♀の産卵弁はくさび状で下方へ突き出す。頭から腹部にかけて緑色の金属光沢がある。成熟個体の複眼は緑色。未熟個体には翅胸側面に黄色条がある。♂では成熟すると消失するが♀は成熟しても残る。エゾトンボと酷似するが、基部を除き腹部に黄色斑がないことや、♂の尾部付属器が太いことなどで区別される。 現地調査結果では、確認されていない。
エゾトンボ 東京都 RDB：絶滅	腹長 37～51mm。♀の産卵弁はくさび状で下方へ突き出す。頭から腹部にかけて緑色の金属光沢がある。未熟個体には翅胸側面に黄色条、腹部各節にも黄色斑があるが、♂では成熟すると消失する。♀は成熟しても残り、腹部の黄色斑は大きくて目立つ。初夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ベッコウトンボ 環境省 RL：絶滅危惧 IA 類 東京都 RDB：絶滅	腹長 24～31mm。ずんぐりとした体型で、翅胸は毛深い。褐色の地に黒色斑があり、腹部背面中央に黒色条がある。♂では成熟すると全身が黒化して斑紋がなくなる。翅の基部と結節、翅端部に大きく明瞭な黒褐色斑がある。春に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ヨツボシトンボ 東京都 RDB：絶滅危惧 IB 類	腹長 27～31mm。ずんぐりとした体型で褐色の地に黒色斑がある。翅胸は毛深く、腹部側面は黄色。翅は基部と結節が黒褐色で前縁に淡褐色帯が入る。春から初夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ハラビロトンボ 東京都 RDB：絶滅危惧 II 類	腹長 20～25mm。腹部が極端に扁平となり、特に♀では顕著。頭部前額は強い金属光沢のある青藍色。未熟個体は黄色を主体とした地色に黒色条斑がある。♂は成熟するにつれ黒味が増して、腹部に青白色の粉をまとう。♀はあまり変化しない。初夏から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
シオヤトンボ 東京都 RDB：絶滅危惧 II 類	腹長 25～29mm。シオカラトンボより小型でずんぐりとした体型。黄褐色の地に黒色斑があり、翅の基部は淡い燈色。♂では成熟すると黒化して翅胸背面と腹部に白粉を厚くまとう。♀はあまり変化しない。春から初夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）

表 7.7-14 (5) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
チョウトンボ 東京都 RDB：準絶滅危惧	腹長 21～26mm。体は黒色で大きな翅を持つ。翅の黒色部の表側は♂では紫藍色、♀では金緑色に輝くが、♀でも紫藍色となる個体が時折ある。初夏から夏に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
キトンボ 東京都 RDB：絶滅	腹長 24～29mm。全身燈黄色で斑紋はない。成熟しても腹部背面に赤みを増す程度で色彩変化が少ない。翅は基部から半分程度と全縁が鮮やかな燈色。 現地調査結果では、確認されていない。
マイコアカネ 東京都 RDB：準絶滅危惧	腹長 21～25mm。ヒメアカネやマユタテアカネに似るが、♂の尾部上付属器の先端が反り返り、成熟個体の顔面が青白色であること、♀の産卵弁が長く腹端を越えないこと、翅胸の斑紋などで区別される。♀は黄褐色だが、稀に♂同様に赤化する個体もある。夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ヒメアカネ 東京都 RDB：情報不足	腹長 19～25mm。マイコアカネやマユタテアカネに似るが、♂の尾部上付属器の先端が反り返らず、成熟個体の顔面が白色であること、♀の産卵弁が長く腹端を越えること、翅胸の斑紋などで区別される。♀は黄褐色だが、稀に♂同様に赤化する個体もある。夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
ミヤマアカネ 東京都 RDB：絶滅危惧 II 類	腹長 23～28mm。翅胸はほぼ無斑、翅の縁紋付近から内側に掛けて幅広い褐色帯が入る。♂では成熟すると全身鮮やかな赤色となり、縁紋も赤くなる。♀は黄褐色。初夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
リスアカネ 東京都 RDB：準絶滅危惧	腹長 24～30mm。翅端部に顕著な黒褐色斑がある。コノシメトンボやノシメトンボに似るが、成熟♂が腹部のみ鮮やかな赤色となることや、翅胸の斑紋などで区別される。夏から秋に見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
オオキトンボ 環境省 RL：絶滅危惧 IB 類 東京都 RDB：絶滅	腹長 31～36mm。全身燈黄色で斑紋はない。成熟しても腹部背面に赤みを増す程度で色彩変化が少ない。翅は全体に鮮やかな淡燈色。 現地調査結果では、確認されていない。
オオアメンボ 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	体長 19～27mm。日本産アメンボ科の最大種。大きさから他種との区別は容易。 現地調査結果では、確認されていない。
エサキアメンボ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：情報不足	体長 7.9～10.5mm。体は暗赤色から褐色。体側に銀白色の微毛が密生しておりよく目立つ。 現地調査結果では、確認されていない。
ババアメンボ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：情報不足	体長 6.3～9.1mm。小型のアメンボで体は黒色。成虫には長翅型と短翅型がある。 現地調査結果では、確認されていない。
ハネナシアメンボ 東京都 RDB：情報不足	体長 6.5～10mm。体は灰黒色から黒色。成虫は無翅型でときに長翅型も見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
シマアメンボ 東京都 RDB：準絶滅危惧	体長 4.8～6.8mm。体は暗黄色で黒色の条紋を持つ。成虫は無翅型でときに長翅型も見られる。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）

表 7.7-14 (6) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
ホッケミズムシ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：情報不足	体長 9.5～10.8mm。大型のミズムシで前胸背と翅の表面にあるしわ状の模様は顕著である。 現地調査結果では、確認されていない。
ミヤケミズムシ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：情報不足	体長 7.2～9.1mm。やや大型のミズムシで、体型は丸みがあり幅広く強い光沢がある。 現地調査結果では、確認されていない。
コオイムシ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	体長 17～20mm。体型は卵形で扁平、前脚は鎌状となっている。♀は♂の背中に卵を産み付ける。 現地調査結果では、確認されていない。
タガメ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：絶滅	体長 48～65mm。日本本土の水生カメムシ類では最大種。体型は長卵形で扁平、前脚は太く鎌状となっている。 現地調査結果では、確認されていない。
タイコウチ 東京都 RDB：絶滅	体長 30～38mm。扁平な体型で前脚は鎌状となっており、腿節に 1 本のとげがある。呼吸管は長く体長とほぼ同じ。 現地調査結果では、確認されていない。
ミズカマキリ 東京都 RDB：準絶滅危惧	体長 40～45mm。細長い体型で前脚は鎌状となっている。呼吸管は体長とほぼ同じかやや長い。 現地調査結果では、確認されていない。
ヒメミズカマキリ 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	体長 24～32mm。細長い体型で前脚は鎌状となっている。ミズカマキリに似るが小型で、呼吸管は体長よりも明らかに短い。 現地調査結果では、確認されていない。
コバンムシ 環境省 RL：絶滅危惧 IB 類 東京都 RDB：絶滅	体長 11.3～12.8mm。体型は小判型で光沢があり、前胸背と前翅の基部は生きているときには鮮やかな緑色である。 現地調査結果では、確認されていない。
クロスジヘビトンボ 東京都 RDB：情報不足	前翅長は 50mm に達する。翅は全体が薄い褐色。体色は黒褐色。ヤマトクロスジヘビトンボに酷似するが、前翅の翅脈によって容易に区別できる。幼虫は水生で、昆虫類などの水生生物を捕えて食べる肉食性。 現地調査結果では、確認されていない。
ヤマトクロスジヘビトンボ 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	前翅長は 50mm に達する。翅は全体が薄い褐色。体色は黒褐色。幼虫は水生で、昆虫類などの水生生物を捕えて食べる肉食性。 現地調査結果では、確認されていない。
ネグロセンブリ 東京都 RDB：情報不足	前翅長 8.5～15.5mm。翅は全体が薄い黒褐色で前翅基部付近は濃色となる。正確な同定には交尾器を観察するのが有効。幼虫は水生で、昆虫類などの水生生物を捕えて食べる肉食性。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）

表 7.7-14 (7) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
クロゲンゴロウ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	体長 20～25mm。背面は緑色あるいは褐色を帯びた黒色で光沢がある。翅端付近には 1 対の小さな黄褐色斑があるが、個体によっては不明瞭となる。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ゲンゴロウ (ナミゲンゴロウ) 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：絶滅	体長 24～29mm で日本産ゲンゴロウ科の最大種。体型は卵形で比較的扁平、背面は緑色あるいは褐色を帯びた暗褐色で光沢があり♀では弱い。前胸背から上翅の側縁は黄色で縁取られ、翅端部に向かうに従い細くなる。平地から丘陵地の池沼などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
コガタノゲンゴロウ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：絶滅	体長 24～29mm。体型は長卵形で、背面は緑色あるいは褐色を帯びた黒色で強い光沢がある。前胸背から上翅の側縁は黄色で縁取られる。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
シャープゲンゴロウモドキ 環境省 RL：絶滅危惧 IA 類 東京都 RDB：絶滅	体長 28～33mm。体型は♂では長卵形、♀では卵形。背面はわずかに緑色を帯びた黒褐色。前胸背から上翅の側縁は黄色で縁取られる。♀には上翅に深い縦溝のある個体が見られる。平地の池沼や氾濫源の湿地などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
マルガタゲンゴロウ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：絶滅	体長 12～14.5mm。体型は卵形で強く盛り上がる。背面は黄褐色で光沢がある。前胸背の前・後縁には黒色の帯紋がある。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
シマゲンゴロウ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	体長 12.5～14mm。体型は卵形で強く盛り上がる。上翅は黒色で光沢があり、明瞭な 2 対の黄色帯と基部付近に 1 対の黄色斑がある。前胸背は黄色。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ウスイロシマゲンゴロウ 東京都 RDB：絶滅危惧 IB 類	体長 10～11mm。体型は卵形。上翅は黄褐色で光沢がある。前胸背も黄褐色でしばしば前・後縁に沿って細く暗色となる。平地の池沼や湿地などに生息する。暖地性の種で、北限の関東地方では稀な種である。 現地調査結果では、確認されていない。
キベリクロヒメゲンゴロウ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅危惧 IB 類	体長 8～10mm。体型は長い楕円形。背面は弱い金属光沢を帯びた黒褐色。上翅の側縁は黄色で、翅端部に向かうに従い徐々に広がる。前胸背の両側は幅広く黄褐色となる。主に平地の池沼に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
オオミズスマシ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅危惧 IB 類	体長 7～12mm で日本本土のミズスマシ科の最大種。明らかに大型であることと、上翅の側縁は黄色であることで容易に区別できる。平地から丘陵地の池沼に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
コミズスマシ 環境省 RL：絶滅危惧 IB 類 東京都 RDB：絶滅	体長 4.9～5.6mm。背面は黒色で光沢がある。ヒメミズスマシに酷似しており、腹部の形状などによって区別される。平地から丘陵地の池沼に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版」(平成 25 年 5 月 東京都環境局)

表 7.7-14 (8) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
ミズスマシ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：絶滅危惧 IA 類	体長 6～7.5mm。背面は黒色で光沢がある。コミズスマシやヒメミズスマシに似るが明らかに大型。平地から丘陵地の池沼などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ヤマトホソガムシ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：情報不足	体長 2.6～3.1mm。背面は赤褐色で体表に青緑金属光沢を持つ。前胸背板のくぼみは顕著。下唇基節は強く点刻される。平地から丘陵地の湿地や水田などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
コガムシ 環境省 RL：情報不足 東京都 RDB：絶滅危惧 IB 類	体長 16～18mm。背面は黒色で鈍い光沢がある。小あごひげと脚は赤褐色。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ガムシ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	体長 33～40mm で日本産ガムシ科の最大種。背面は黒色で鈍い光沢がある。腹部は無毛で後胸突起は腹部第 2 節に達する。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
マメガムシ 東京都 RDB：絶滅危惧 IB 類	体長 3.5～4mm。背面は黒色で微細毛を密に装う。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ヒメガムシ 東京都 RDB：絶滅危惧 II 類	体長 9～11mm。背面は黒色で鈍い光沢がある。コガムシに似るが明らかに小型で体型もやや細い。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
アヤスジミゾドロムシ 環境省 RL：絶滅危惧 IB 類 東京都 RDB：留意種	体長 3.4～3.7mm。全体に黄色だが、上翅の点刻列に沿って黒条がある。脚は著しく長く、爪が大きい。河川の比較的緩やかな流れに生息し、成虫、幼虫ともに流木の表面にいる。成虫は夏に出現し、灯火に飛来する。 現地調査結果では、確認されていない。
タマガワナガドロムシ 東京都 RDB：留意種	体長 2.9～4.2mm。細長い黄褐色の体の背面には毛が密生し、上翅に暗色の複雑な模様がある。同属のタテスジナガドロムシとは、腹部第 1 節の腿節線が完全であることにより区別できる。川辺の砂泥中に生息し、成虫は灯火に飛来する。 現地調査結果では、確認されていない。
ゲンジボタル 東京都 RDB：絶滅危惧 IB 類	体長 10～16mm。よく知られた種で、本科としては大型、前胸は黄橙色で中央にやや不明瞭な十字架紋を持つ。成虫は梅雨どき中出现し、ときに灯火にも飛来する。 現地調査結果では、確認されていない。
ヘイケボタル 東京都 RDB：絶滅危惧 IB 類	体長 7～10mm。よく知られた種で、ゲンジボタルより小型、前胸は黄橙色で中央に太い縦条紋を持つ。成虫は梅雨どきから夏に出現し、ときに灯火にも飛来する。 現地調査結果では、確認されていない。
ヌカエビ 東京都 RDB：留意種	体長 3～4cm(額角を含める)。額角は頭胸甲長の 4/5 ほどで、水平に突出する。額角上縁にある 6～20 歯は眼窩後部より前方に位置する。下縁には 0～5 歯がある。第 1、2 胸脚は小さなさみを持ち、両指の先端に長毛の束がある。一般に透明感があるが、褐色がかった個体、緑色がかった個体、淡褐色の線模様を持つ個体など、変異に富む。緩やかな流れの中の水草や水中に露出した樹木の根の間などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）

表 7.7-14 (9) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
テナガエビ 東京都 RDB：留意種	体長 8～10cm(額角を含める)。額角は真直ぐで、第 2 触角鱗片の先端に達する。上縁に 12、13 歯、下縁に 2～4 歯がある。尾節は第 6 腹節より長く、背側縁と末端縁に各 2 対のとげがある。第 2 胸脚は十分に成長したオスでは体長の 1.5～2 倍の長さになる。また、若い個体では指部と掌部は等長であるが、大型のオスでは掌部が指部の 1.3 倍になる。河川、湖沼に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ユビナガスジエビ 東京都 RDB：留意種	体長約 4cm(額角を含める)。額角は水平に突出する。上縁に 10、11 歯があり、1、2 歯が眼窩後部より前方に位置する。下縁には 2～4 歯がある。胸脚の指節は近縁種に比較して長いことが本種の特徴である。頭胸甲には細い黒線模様があるが、腹甲には線模様はなく、濃褐色の小斑が一様に散りばめられている。全体に黒っぽい個体も見られる。内湾に注ぐ河川の汽水域から前浜干潟に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
シラタエビ 東京都 RDB：留意種	体長約 7cm(額角を含める)。額角は細長く、頭胸甲長の 1.5 倍ほどの長さがあり、前方の約 2/3 が斜め上方を向く。額角の上縁基部の盛り上がりは強く、その縁に 6、7 歯が並ぶ。下縁には 3～6 歯がある。尾節はくさび形で、背側縁に 2 対、末端部両側に 2 対のとげがある。第 1、2 脚は細長く、はさみを持つ。一般に透明感があり、頭胸甲、腹部ともに複雑な模様はない。内湾の汽水域に生息するが、浅海域でも見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
スジエビ 東京都 RDB：留意種	体長約 5cm(額角を含める)。額角は頭胸甲長の約 1/2 で、先端がやや上を向く。上縁に 5、6 歯、先端近くに 1 小歯、下縁に 2 歯がある。尾節の背側縁と末端近くの両側に各 2 対のとげがある。第 1、2 胸脚は小さなはさみを持ち、後方 3 対の胸脚は後方ほど長い。透明感のある体に明瞭な黒色縞模様があり、各胸脚の関節部は黄色い。河川、大型湖、池沼など多様な淡水環境に生息し、河口に近い汽水域でも見られる。 現地調査結果では、確認されていない。
サワガニ 東京都 RDB：留意種	甲幅約 3cm。甲の輪郭は丸みのある四角形で、後方がやや狭まる。甲面は滑らかで、甲域は不明瞭。眼窩外歯の後方で小さく切れ込む。オスのはさみ脚は大きく、左右で大きさが異なる。十分に成長したオスでは大きい方のはさみの両指は大きく湾曲し、隙間を残す。メスのはさみ脚は左右同大。体色は紫黒色、赤褐色、灰青色の 3 型。溪流に生息し、夏は水から離れて活動することが多い。 現地調査結果では、確認されていない。
クロベンケイガニ 東京都 RDB：留意種	甲幅約 3.5cm。甲の輪郭は四角形で、背面は前後に弱く湾曲する。甲域は深い溝で明瞭に分けられ、甲の側縁に近い鰓域上には平行な斜めの条線が多数ある。眼窩外歯は前方を向いて鋭く尖るが、甲の左右の側縁に切れ込みはない。はさみ脚は左右とも大きく、同形同大。各節は顆粒で密に覆われる。歩脚は太く長い。河口の水域周辺を中心に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
カクベンケイガニ 東京都 RDB：留意種	甲幅約 2～。甲の輪郭はわずかに横長の四角形で、左右の側縁はほぼ平行である。各甲域は明瞭であるが、盛り上がることはない。眼窩外歯は三角形で、斜め前方に向いて尖るが、甲の側縁には切れ込みがない。オスのはさみ脚の掌部上縁に櫛歯状の角質突起が斜めに 3 列あり、また、可動指の上縁に 13～16 個の顆粒が並ぶ。河口域を中心に生息し、陸上へと進出している。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(平成 25 年 5 月 東京都環境局)

表 7.7-14 (10) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
ベンケイガニ 東京都 RDB：留意種	甲幅約 4cm。甲の輪郭は四角形。甲域は明瞭に区分される。特に中胃域は縦に二分され、額縁の後方に横に並ぶ 4 個の隆起を形成する。眼窩外歯は大きく、前方を向いて尖る。眼窩外歯の後方に深い切れ込みがあり、その後方に大きな、しかし眼窩外歯よりやや小さい歯が形成される。オスのはさみ脚は大きく、掌部外面に平たい顆粒が集まる。河口域から周辺に分布を広げ、夏に幼生を放つために海辺に集まる。 現地調査結果では、確認されていない。
モクズガニ 東京都 RDB：留意種	甲幅約 5.5cm。甲の輪郭は丸みを帯びた四角形で、甲面は平たく、浅い溝で甲域に区分される。額縁は中央が浅くくぼみ、その左右が弱く突出するため、額縁全体が波打つ状態である。眼窩外歯の後方に 2 歯があるが切れ込みは小さい。はさみ脚掌部に軟毛の房があり、大型のオスでは特に著しい。河川の中流域に生息し、降海して半年ほどの間に 2、3 回、幼生を海に放つ。海で育った稚ガニが河川を遡上する。 現地調査結果では、春季に 2 個体が確認された。
アシハラガニ 東京都 RDB：留意種	甲幅約 3cm。甲の輪郭は四角形で、背面は前後に弱く湾曲する。甲域は浅い溝で明瞭に分けられ、細かい毛で覆われる。甲の左右の側縁はほぼ平行で、眼窩の後方に 2 つの小さな、しかし明らかな切れ込みがある。オスのはさみ脚は左右とも大きく、同形同大。はさみ脚長節の末端部に稜があり、これで眼窩下縁に 1 列に並ぶ 16～18 個の顆粒をこすって発音する。河口のヨシ原を中心に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ケフサイソガニ 東京都 RDB：留意種	甲幅約 3cm。甲の輪郭は丸みのある四角形で、後方にやや狭まる。甲面は前後左右に弱く湾曲し、甲域は明瞭。眼窩外歯は三角形で、前方を向いて尖る。眼窩外歯の外縁は弱く湾曲する。その後方に 2 歯があるが、外縁はほぼ真直ぐである。オスのはさみ脚は大きく、両指の基部に軟毛の房があるが、メスや若い個体に毛はない。内湾の砂泥底や河口域に生息するが、純淡水域では見られない。 現地調査結果では、確認されていない。
チゴガニ 東京都 RDB：留意種	甲幅約 1cm。甲の輪郭はやや横長の四角形ないし六角形。甲面には短毛がまばらに生える。額縁は短く、その側部から細長い眼窩が斜め後方に走る。眼窩は背側に開き、細長い眼柄が収まる。左右のはさみ脚は同形同大で、雌雄とも掌部と指部が白い。オスは口部周辺が青緑色である。河口域の砂泥地に巣穴を掘って生活し、干潮時に長時間地表で活動する。摂餌後は口の部分で砂を丸め、巣穴周辺に置く。 現地調査結果では、確認されていない。
コメツキガニ 東京都 RDB：留意種	甲幅約 1cm。全体として球形に近いが、後方がやや幅広い。眼柄は比較的太く、左右の基部が接近している。眼窩外歯の後方に小さな 1 歯がある。左右のはさみ脚は同形同大で、指が細長くて先端が尖る。はさみ脚と歩脚の長節に楕円形の薄膜構造があり、聴覚に関与していると考えられている。大きな第 3 顎脚が口部を完全に閉ざしている。河口域の砂泥地に巣穴を掘って生息し、干潮時に地表に出て活動する。摂餌後の砂を丸めて巣穴周辺に置くが、巣穴周辺を縄張りとして守る行動は弱い。 現地調査結果では、確認されていない。
ヤマトオサガニ 東京都 RDB：留意種	甲幅約 4cm。甲の輪郭は横長の四角形(甲長と甲幅の比は約 1.5)。甲面は狭い溝で甲域に分けられ、小顆粒が散在する。眼窩は甲の前縁の全長を占め、細長い眼柄が収まる。甲の前側縁部に大きな切れ込みと小さな切れ込みがある。オスのはさみ脚は長大で、両指は掌部に対して直角に近く曲がる。メスのはさみ脚は細長い。中央 2 対の歩脚は太く、長い。河川の河口域の軟泥底に斜めに穴を掘り、干潮時にオスはメスに向かって両はさみ脚を振り上げて求愛する。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(平成 25 年 5 月 東京都環境局)

表 7.7-14 (11) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
ツボミガイ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	殻長 6.7mm、殻幅 5.4mm、殻高 5.1mm 程度の笠形で、殻はやや薄質。側面はやや膨らむ。殻頂は後方へ寄る。殻表はほぼ平滑で、光沢がなく、種々の灰褐色の放射彩を持つ。内面周縁は暗褐色のまだらで、上部は青白色、中央は黄褐色。内湾潮間帯に生息するウミナ類の殻表に付着するが、ウミナ類との生態的關係は不明である。 現地調査結果では、確認されていない。
マルタニシ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：絶滅危惧 I 類	殻高 6cm、殻径 4.5cm 程度の卵円形、殻はやや薄質。体層が全体の 2/3 を占め、臍穴はわずかに開く。縫合は深い。殻頂は通常浸食される。殻皮はやや光沢のある緑黄褐色。体層はほぼ平滑。外唇は肥厚し、通常黒く縁取られる。殻口は卵形で、歯状突起を持たない。赤褐色で革質のフタを持つ。水田や用水路の泥底に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
オオタニシ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅危惧 I 類	殻高 6cm、殻径 4.5cm 程度の円錐形、殻はやや薄質。体層が全体の 2/3 を占め、臍穴はわずかに開く。殻頂は通常浸食されず尖る。螺塔側面観は直線的で、縫合はやや浅い。殻皮はやや光沢のある黒褐色。体層はほぼ平滑。外唇は通常肥厚せず、通常黒く縁取られない。流れのゆるやかな河川や池沼に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ウミナ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	殻高 30mm、殻径 13mm 程度の塔形で、殻は厚質で堅固。螺層に数本の太い肋を持ち、肋間は狭い。結節は丸い。内唇の滑層瘤は強く発達する。外唇は湾入しない。体層に縦張肋を持つ。間接発生。内湾奥部の潮間帯の泥底に生息する。干潟産。近似種のホソウミナは、内唇の滑層瘤は弱く発達せず、体層に縦張肋を持たず、直達発生を行う。河川水が影響する内湾や河口に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
イボウミナ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：絶滅	殻高 30mm、殻径 10mm 程度の塔形で、殻は厚質で堅固。螺層に数本の細い肋を持ち、肋間は広い。結節は尖る。内唇の滑層瘤は弱くレール状。外唇は湾入する。体層に縦張肋を持たない。河川水が影響する内湾や河口で、ウミナよりも低い潮位に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
フトヘナタリ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	殻高 40mm、殻径 14mm 程度の円筒形で、上方へ細くなり、成長すると殻頂部が欠落する。殻色は白色から黒褐色まで変異し、細い色帯を持つことが多い。殻は厚質。各層には、20 本程度の縦肋を持ち、7 本程度の螺肋との交点は結節を形成し、殻表は布目状となる。殻口外唇は肥厚し、張り出す。内湾にある河口に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
クロヘナタリ 環境省 RL：絶滅危惧 I 類 東京都 RDB：絶滅	殻高 30mm、殻径 10mm 程度の円筒形で、上方へ細くなり、成長しても殻頂部は磨滅するのみで、欠落しない。殻色は黒褐色から黄褐色まで変異し、種々の色帯を持つこともある。殻はやや薄質。各層には、20 本程度のやや弱い明瞭な縦肋を持ち、極めて弱い螺肋も有するが、平滑に見える。殻口外唇は肥厚せず、張り出さない。ヨシの生育する内湾奥部や河口の砂泥底に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ヘナタリ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	殻高 25mm、殻径 12mm 程度の塔形で、殻は厚質で堅固。螺層に 3 本の肋を持ち、縦肋と交わり、結節状となる。縫合下の肋が他の 2 本より太い。通常肋間は狭く、黒色となる。殻色は、黄色の地に黒色の色線を巡らす。外唇下端は水管部へ伸びる。体層に縦張肋を持つ。淡水の影響する内湾干潟の砂泥底に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）

表 7.7-14 (12) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
カワアイ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：絶滅	殻高 35mm、殻径 13mm 程度の塔形で、殻は厚質で堅固。螺層に 3 本の肋を持ち、縦肋と交わり、結節状となる。3 本の肋は同程度の太さ。通常肋間は広く、彩色されない。殻色は、濃褐色の単色。外唇下端は水管部へ伸びない。体層に縦張肋を持たない。河川水が影響する内湾や河口の干潮時に露出する泥地や砂泥地に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
カワグチツボ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：留意種	殻高 6mm、殻径 3.6mm 程度の紡錘形で、殻は薄質。殻皮は帯緑黄褐色だが、付着物や浸食により黒色に見える場合も多い。殻表には点刻列を持つ。縫合は深い。臍穴は狭く開く。外唇はわずかに肥厚する。淡水の影響がある内湾奥部や潟湖、河口汽水域の泥上に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ヨシダカワザンショウ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅危惧 II 類	殻高 3.2mm、殻径 2.2mm 程度の円錐形で、殻はやや薄質でやや堅固。体層周縁は丸い。縫合はやや深い。殻は光沢のある淡栗色。殻表は平滑。臍穴は狭く開き、その周囲は黄色帯を巡らすように見える。ヨシの生育する河口汽水域に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ムシヤドリカワザンショウ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：情報不足	殻高 3.7mm、殻径 2.5mm 程度の円錐形で、殻は厚質で堅固。体層周縁は丸い。縫合はやや浅い。若いうちは、殻は光沢のある栗色で、縫合下に明瞭な黄白色帯を巡らす。殻表は平滑。臍穴は閉じる。ヨシの生育する河口汽水域に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
マメタニシ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：絶滅危惧 I 類	殻高 13mm、殻径 7mm 程度の卵形、殻はやや薄質。体層が全体の 2/3 を占め、臍穴は裂け目状に開く。殻頂は通常浸食され、消失する。殻皮はやや光沢のある緑黄褐色。体層に 10 本程度の明瞭な螺肋を持つ。外唇は肥厚し、通常黒く縁取られる。殻口は卵形で、歯状突起を持たない。白色で石灰質のフタを持つ。湖やため池、水田や用水路、湿地などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ウミゴマツボ(エドガワミズゴマツボ) 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：留意種	殻高 2.5mm、殻径 1.2mm 程度の卵円形で、小形、殻はやや厚質でやや堅固。通常、螺塔部は残存する。体層が殻高の 2/3 を占め、丸い。殻は緑黄褐色で、弱い光沢がある。殻表に、粗い点刻からなる螺状溝を持つ。内湾や河口の汽水域に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ミズゴマツボ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：情報不足	殻高 5.0mm、殻径 2.9mm 程度の卵円形で、中形、殻はやや厚質でやや堅固。体層が殻高の 2/3 を占め、丸い。殻は緑黄褐色で、弱い光沢がある。殻表に、やや細かい点刻からなる螺状溝を持つ。殻口は円形で、革質のフタが殻口を完全に塞ぐ。大潮時に潮が入り込む感潮域やこれに近いレベルの水路や池などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
モノアラガイ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅危惧 II 類	殻高 25mm、殻径 20mm 程度の卵形、殻は薄質。体層が全体の 4/5 を占め、螺層は小さく、臍穴は裂け目状。縫合は深い。殻表は平滑で、淡黄褐色の半透明。軸唇はねじれる。フタを持たない。池沼や水田、川の淀みなどの水草や礫に付着する。 現地調査結果では、確認されていない。
カワネジガイ 環境省 RL：絶滅危惧 I 類 東京都 RDB：絶滅	殻高 10mm、殻径 2.4mm 程度の針状、殻は極めて薄質。螺層は巻とけ、上部と下部に角を持つ。淡黄白色で、光沢は鈍い。殻表は、やや規則的な成長肋があるものの平滑に見える。池沼や川でヨシ原や沈水植物群落があるところに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ヒダリマキモノアラガイ 環境省 RL：絶滅危惧 I 類 東京都 RDB：絶滅	殻高 6mm、殻径 3.4mm 程度の左巻、長卵形、殻は薄質。体層が殻のほとんどを占め、螺塔は小さく、臍穴は裂け目状。縫合は深い。殻表にはやや密で、肋間の大きく開いた明瞭な螺肋を持つ。濁黄白色。軸唇はねじれず、直線状。フタを持たない。池沼でヨシ原や沈水植物群落があるところに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」(平成 25 年 5 月 東京都環境局)

表 7.7-14 (13) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
ヒラマキミズマイマイ 環境省 RL：情報不足 東京都 RDB：絶滅危惧Ⅰ類	殻高 1.8mm、殻径 6mm 程度の円盤形、やや小型、殻は薄質。淡黄褐色で、弱い光沢がある。殻表は、ほぼ平滑。初期螺層は上下とも大きく開き、殻径の 1/2 程度。螺層は体層部でも広がらない。体層周縁に弱い角を持ち、殻皮突起は不明瞭。池沼、河川、水田などの水草や礫などに付着する。 現地調査結果では、確認されていない。
ハブタエヒラマキ 環境省 RL：情報不足 東京都 RDB：絶滅危惧Ⅰ類	殻高 1.2mm、殻径 4mm 程度の円盤形、やや小型、殻は薄質。黄褐色で、かなり弱い光沢がある。殻表は、ほぼ平滑。初期螺層は上下とも大きく開き、殻径の 1/2 程度。螺層は体層部で広がる。体層周縁に角を持たず、殻皮突起も不明瞭。池沼、河川、水田などの水草や礫などに付着する。 現地調査結果では、確認されていない。
トウキョウヒラマキ 環境省 RL：情報不足 東京都 RDB：絶滅危惧Ⅱ類	殻高 1.9mm、殻径 7.5mm 程度の円盤形、やや大型、殻は薄質。淡黄褐色で、弱い光沢がある。殻表は、ほぼ平滑。初期螺層は上下とも大きく開き、殻径の 1/2 程度。螺層は体層部でも広がらない。体層周縁に強い角を持ち、殻皮突起は明瞭。池沼、河川、水田などの水草や礫などに付着する。 現地調査結果では、確認されていない。
ヒラマキガイモドキ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅危惧Ⅰ類	殻高 2.4mm、殻径 6mm 程度の円盤形、中型、殻は薄質だが堅固。淡黄褐色で、強い光沢がある。殻表は、ほぼ平滑。殻頂部はほぼ平巻で、僅かにくぼむ。底面は平坦で、角を持ち、臍孔は狭いが明瞭。殻口内部に歯状突起を持つ。池沼、河川、水田などの水草や礫などに付着する。 現地調査結果では、確認されていない。
カラスガイ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅危惧Ⅰ類	殻長 25cm、殻高 12cm、殻幅 8cm 程度の垂菱形、殻はやや薄質。殻頂は前方に寄り、殻縁からわずかに突出する。殻皮は成貝では黒褐色で、幼貝では緑褐色。殻表は成長肋を持つ他は、平滑。殻頂下に側歯を持つことで、ドブガイ類と簡単に識別できる。湖や池沼に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
マツカサガイ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅危惧Ⅰ類	殻長 44mm、殻高 28mm、殻幅 14mm 程度の卵形、中形、殻は厚質で堅固。殻頂は前方に寄り、浸食され、殻縁から突出しない。殻皮は黒褐色で、殻表に「松毬」のような分岐した彫刻を有する。この彫刻は、通常殻全面に明瞭で、後背縁に及ぶ。グロキディウム幼生は腹側頂部に棘状突起を持たない無鉤型。小河川や用水路などに生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
タガイ 東京都 RDB：絶滅危惧Ⅰ類	殻長 9cm、殻高 5.8cm、殻幅 3.5cm 程度の長卵形、中型、殻はやや薄質。殻頂は前方に寄り、あまり殻縁から突出しない。殻表に彫刻はなく、緑色系～黒色系の殻皮を被る。内面にかみ合わせの歯はない。一時、本種(B 型)とヌマガイはドブガイとしてまとめられていたが、近年の研究で遺伝的な関係や繁殖期などから別種であることが再確認された。ただ、両種の共存域では、殻高などの形質置換により識別がしやすいが、単独生息域では殻形態だけからの分類は困難であるとされる。 現地調査結果では、確認されていない。
ウネナシトマヤガイ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：絶滅	殻長36mm、殻高33mm、殻幅21mm程度の垂三角形、殻はやや厚質、腹縁はやや直線的。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表にはやや粗い明瞭な成長肋を持ち、殻皮は漆黒色で、光沢がある。内湾や河口の汽水域に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ヤマトシジミ 環境省 RL：準絶滅危惧 東京都 RDB：留意種	殻長 36mm、殻高 33mm、殻幅 21mm 程度の垂三角形、殻はやや厚質、腹縁はやや直線的。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表にはやや粗い明瞭な成長肋を持ち、殻皮は漆黒色で、光沢がある。河口の汽水域に生息する。河口や淡水が影響する内湾に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」(平成 25 年 5 月 東京都環境局)

表 7.7-14 (14) 注目される種の分布・生態的特徴

注目される種	分布・生態的特徴及び確認状況
マシジミ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：絶滅危惧 I 類	殻長 30mm、殻高 25mm、殻幅 17mm 程度のやや低い亜三角形、殻はやや厚質、腹縁はやや直線的。殻頂は中央に位置し、頂点となる。殻表にはやや粗い明瞭な成長肋を持ち、殻皮は帯緑褐色で、不明瞭な褐色斑を散らすことが多い。光沢は弱い。内面腹縁部は紫色で、他は年輪状に淡紫色に染まるものの、白色。河川や池沼に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。
ハナグモリガイ 環境省 RL：絶滅危惧 II 類 東京都 RDB：情報不足	殻長 20mm、殻高 12mm、殻幅 9mm 程度の亜方形、殻は薄質、腹縁は直線的で中央はわずかに窪む。殻頂はやや前方に寄り、突出する。殻表には細かい成長肋を持ち、やや粗面。緑黄褐色の殻皮があり、光沢はない。内湾奥の泥質干潟に生息する。 現地調査結果では、確認されていない。

資料 1) 「レッドデータブック東京 2013 東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版」（平成 25 年 5 月 東京都環境局）

イ. 生息環境

a. 既存資料調査

千代田区生物多様性に関する基礎調査報告書（平成 24 年 3 月 千代田区）によると、調査対象区域において、川と海を行き来するマルタが確認されており、日本橋川は川と海の連続性が保たれている水域であるとされていました。

また、水生生物の生息環境である水質及び底質の状況については、「7.3 水質汚濁 7.3.1 現況調査 (4) 調査結果 ア. 水質等の状況 a. 既存資料調査」(7-178～7-180 ページ参照) のとおりです。

これによると、生活環境項目 (BOD、SS)、その他項目 (ダイオキシン) は、環境基準を達成しています。健康項目は、ほう素を除き、環境基準を達成しています。底質は、ダイオキシン類の調査が行われており、環境基準を達成しています。

b. 現地調査

水生生物の生息環境である水質及び底質の状況については、「7.3 水質汚濁 7.3.1 現況調査 (4) 調査結果 ア. 水質等の状況 b. 現地調査」(7-181～7-183 ページ参照) のとおりです。

これによると、計画道路周辺の浮遊物質 (SS) は、最大値で 15 mg/L となっており、環境基準 (50 mg/L) を達成しています。また、底質はいずれの項目でも基準値を達成しています。

ウ. 法令による基準等

生物に係る事業者の責務を定めた関係法令は、表 7.7-15 のとおりです。

表 7.7-15 関係法令、条例等 to 示される事業者の責務

関係法令等	事業者の責務
「自然環境保全法」 (昭和 47 年 6 月 22 日 法律第 85 号)	(国等の責務) 第 2 条 国、地方公共団体、事業者及び国民は、環境基本法 (平成 5 年法律第 91 号) 第 3 条から第 5 条までに定める環境の保全についての基本理念にのっとり、自然環境の適正な保全が図られるように、それぞれの立場において努めなければならない。
「東京における自然の保護と回復に関する条例」 (平成 12 年 12 月 22 日 東京都条例第 216 号)	(事業者の責務) 第 5 条 事業者は、事業活動を行うに当たっては、自然の保護と回復に自ら努めるとともに、知事が実施する自然の保護と回復に係る施策に協力しなければならない。

7.7.2 予測

(1) 予測事項

予測事項は、建設機械の稼働に伴う水生生物相の変化の内容及びその程度としました。

(2) 予測の対象時点

工事の施行中における予測の対象時点は、工事の施行中としました。

(3) 予測地域

予測地域は計画道路を中心とした周辺の河川としました。

(4) 予測手法

事業計画及び水質予測結果を基に、水生生物の生息環境の変化の程度を把握して、定性的に予測しました。

(5) 予測結果

水生生物では、注目される種として、現地調査で魚類が1種（マルタ）、底生動物が1種（モクズガニ）確認されたことから、これらの種を対象に予測を行いました。

マルタは、海と河川の連続性を分断すると遡上ができず、繁殖できなくなるため引き続き留意する必要があることから留意種に指定されていますが、近年増加傾向にあります。また、モクズガニは、2004年に東京湾で採集されたチュウゴクモクズガニの増殖が危惧されることから留意種に指定されています。

本事業において、マルタの遡上を阻害する河川と海の連続性を分断するような工事を行うことはありません。また、河川の水の濁りが発生する工事は、既設の高架の撤去工事における直接水域と接する工事ですが、これについては底質を巻き上げないよう、汚濁防止膜を設置することで濁り（SS）の周辺水域への移流拡散の防止に努めます。

以上より、注目される種の生息環境への影響は小さいと予測されます。

7.7.3 環境保全のための措置

工事の施行中における魚類相、底生動物相への影響を実行可能な範囲内で低減するため、以下の環境保全措置を講じることとします。

【予測に反映した措置】

- ・濁りの拡散防止のため、汚濁防止膜を設置することにより、水生生物の生息環境に著しい影響を及ぼさないように努めます。

【予測に反映していない措置】

- ・過剰な速度での施工を避けた工事計画とすることで、単位時間当たりの発生負荷量を低減します。
- ・降雨中など、濁りが発生しやすい条件下での工事を避けることで、発生負荷量を低減します。

7.7.4 評価

(1) 評価の指標

水生生物の評価の指標は「自然環境保全法」(昭和47年6月22日法律第85号)に定められた国等の責務である「第2条 国、地方公共団体、事業者及び国民は、環境基本法(平成5年法律第91号)第3条から第5条までに定める環境の保全についての基本理念にのっとり、自然環境の適正な保全が図られるように、それぞれの立場において努めなければならない。」及び「東京における自然の保護と回復に関する条例」(平成12年12月22日東京都条例第216号)に定められた事業者の責務である「第5条 事業者は、事業活動を行うに当たっては、自然の保護と回復に自ら努めるとともに、知事が実施する自然の保護と回復に係る施策に協力しなければならない。」とします。

(2) 評価結果

評価は、予測の結果及び評価の指標に基づき、地域の特性及び環境保全のための措置を勘案して、工事の施行中は、「建設機械の稼働に伴う水生生物相の変化の内容及びその程度」について評価することにより行いました。

当該地域での現地調査結果から魚類や底生動物の確認種は極めて少ない状況でした。さらに工事施行の範囲における水域では、干潟、浅場等の水生生物の生息に適した環境はみられません。

また、本事業において、河川と海の連続性を分断するような工事を行うことはなく、種々の生息環境への影響はないと予測され、さらに直接水域と接する工事については、汚濁防止膜を設置することにより、工事の施行による水質への影響の程度は小さいと予測されます。

以上より、水生生物の生息環境及び注目される種の生息環境への影響は極めて小さいと考えられ、評価の指標とした「自然環境保護法」及び「東京における自然の保護と回復に関する条例」を満足すると考えます。